

こまちダムの 活用方法について

(提案内容)

もう少しするとダムが完成しますよね？ブラックバスの釣りが出来るダムにするのはどうでしょうか？害魚とイメージがよくありませんが・・・。

河口湖町では、ブラックバスを上手に利用して活性しています。

遊漁料1日1000円でも釣れば皆払ってくれますし、ボート屋も町営にしてしまえば莫大なお金が町に入ると思います。周りのコンビニ、自販機などは売り上げが増えますし、遊漁料を集める人、ボート屋を管理する人、清掃する人など雇用も安定すると思います。人口も増えて来るのではないかと。どうせバスをゲリラ放流されると思います。逆に利用してしまえばいいのではないのでしょうか？バスの駆除に金をかけるのなら、『バスの釣れる町』『バスを引き取る町』『しかし遊漁料はいただきませす』『ルールを守って楽しいバス釣りを…』とすれば街の活性化に繋がるのではないのでしょうか？週末には賑やかな町になると思います！

(回答)

こまちダムは、平成6年度に福島県が事業主体となり、旧建設省の事業採択を受け、洪水調節、既得取水の安定化・河川環境の保全及び上水道用水の供給を目的に建設を進めてきました。いよいよ平成19年3月には完成の運びとなります。



憩いの水辺としても期待されるこまちダム

河口湖町では、ブラックバスをうまく活用し町の活性化を図っているようです。もともと魚釣りで有名だった河口湖は、ブラックバス釣りの人気が高まり、釣り人の増加とともに河口湖周辺の違法駐車、排泄行為による環境汚染、釣り糸、擬似餌の放置による生態系への影響が深刻化し、観光地の衰退につながるものといった問題が起ったことから、「遊魚税」(遊魚券購入時に200円)の導入に踏み切ったようです。

さて、ご提案の内容について調べたところ、国では平成17年6月に施行された「外来生物法(特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律)」により、オオクチバスなどの外来生物を放してはならないという規制を行っています。

県では、福島県内水面漁業調整規則により、水産動物の移植の制限をしていて、「ブラックバス(オオクチバス、コクチバスその他のオオクチバス属の魚)」と「ブルーギル」が制限の対象に指定されています。



パンフレットによるお知らせ

また、漁業権を有する夏井川漁業協同組合では、在来種保存のためブラックバス等の移植許可には「同意しない」としています。

さらに、周辺住民やダム地権者会などからは、水質保全のため禁漁区に出来ないかといった意見も出されています。

このような状況から、こまちダムにおいては、在来種を保存しながら、憩いの場として、自然と共生した豊かで、美しい環境を構築していきたいと考えています。